

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 稲城市立長峰小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0821
東京都稲城市長峰2-8

E-mail inenaga2@educet03.plala.or.jp

Website http://academic3.plala.or.jp/naga-e/

幼児児童生徒数 男子 283名 女子 257名 合計 540名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

① ESDに係わる活動

ESDの本校の目標は、①環境・自然、人権尊重、地域を題材にした学習活動を通して、学習者同士、また地域・社会とつながりをもつ。②未来を見通して地域や社会のために課題点を見だし、それを解決するために実際に行動に移すような力を付ける。③課題と要因を判断し、それを解決する具体策を考える力、他者に自分の考えを伝える表現力をESDを通して身に付けること、である。それを特に生活科・総合的な学習の時間で研究することにより、児童の課題設定能力や、自己または他者と協力しての課題解決能力が向上するのかを検証してきた。

② 「主体的・対話的で深い学び」となる活動

学習活動が「主体的・対話的で深い学び」となるように、校内で指導法を共有し、指導計画や評価の見直しをしてきました。また、分科会での話し合いを充実させ、授業観察の仕方や協議会の形式を様々な方法で試し、研究会が深まるように手だてを講じてきた。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

長峰の ESD は、まず地域にある身近な課題に気付き、それに対する課題を設定するように学習活動を工夫することで、そこから広く未来や世界の課題に目を向けられる児童の育成をねらっている。6年生が総合的な学習の時間として、5年生から取り組んでいる学校林での活動では、これまで放置されていた学校林を下級生や地域の人に開放したいという願いをもとに環境整備を行ってきた。6年生では ESD の視点に立った学習活動を通し、「批判的に考える力」、「多面的・総合的に考える力」、「未来像を予想して計画を立てる力」を身に付けることを重点目標としている。そこで、自分たちの考えだけで進めてきたこれまでの活動を見直したり振り返らせたりとする中で、自分たちだけではできない整備の仕方や、一般に開放されている公園の専門的な造り方があることに気付くようになった。その解決のために稲城グリーンウェルネス財団をゲストティーチャーに呼んだことで、さらに将来的に自然環境や生態系を守ることができる学校林づくりに向けて新たな課題を設定することができ、6月には入るのに危険な痛んだ柵を撤去し、7月には樹名板や鳥の巣箱作りをするなど、実践的な取り組みをすることができた。このようにして、地域の方にサポートしていただくことで自分たちの願いが形となったことで、地域への愛着や、地域を大切にしていこうとする気もちがもてた。



① 鳥の巣箱作り



② 樹名板の取り付け



② エコプロ2017での報告



④ 5年生への活動報告・発表

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 委員会活動:環境委員会)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

※書籍やウェブサイトを聞くのはおかしいと思います。ユネスコスクールとして本来は地域人材や地域教材を挙げるべきではないでしょうか。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・児童の課題意識を高めるために、児童が主体的に課題を見付け、自分事として解決できる題材（学校林、梨の木の栽培等）を今年度開発し、指導計画を立てた。
- ・主体的に解決に取り組める課題を設定するために、課題を見直し設定する時間を一単元の指導計画の中で必ず2回以上行う。
- ・ESDの推進拠点校であるユネスコスクールとして、国際理解や人権、平和等の題材も開発していき、世界や社会との関係性を認識し、「関わり」や「つながり」を尊重できる児童を育てていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

各教科で身に付けた知識や技能が統合されて様々な場面で生かせるような概念的知識とするために、他教科同士の関連が分かるような ESD カレンダーの見直しを行った。

オリンピックパラリンピック教育に関わる各学年35時間の年間計画を立て、スポーツに親しむとともに、日本の文化伝統や、国際理解、ボランティアマインド等の指導を教科・領域等で指導を行っていく。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

- ・ 児童に課題設定をさせ、課題を自分事と捉えさせるようにしたことで、児童が主体的に活動するようになった。全体的に教師主導型の学習活動が減り、児童主体型の学習活動が展開されるようになった。
- ・ 各単元の目標を一文にまとめたりしたことで、最終的な目標(ゴールイメージ)が教師だけでなく児童にとっても明確となり、外れることなく目標に到達できるようになった。
- ・ 2回以上のスパイラルで学習活動を行うようにするこれまでの取り組みの成果が出ていて、児童が最終的な目標に到達するための課題を設定し直すことができるようになった。
- ・ 各教科で身に付けた知識や技能が統合されて様々な場面で生かせるような概念的知識とするために、他教科同士の関連が分かるような ESD カレンダーの見直しを行うことができた。
- ・ 分科会での話し合いを充実させ、授業観察の仕方や協議会の形式を様々な方法で試し、研究会が深まるようにした。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

6年生は、12月8日に東京ビッグサイトで行われていた「エコプロダクツ2017」に参加し、これまでの活動について展示や発表を行った。また、会場内の特設ブースでは、稲城市の代表として希望者の児童で学校林での活動について発表も行った。自分たちの活動を振り返ってまとめ、多くの人に紹介できたことは、子供たちの自信につながり、持続可能な社会づくりの担い手としての認識を生まれた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

特になし

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

教育活動の全てが ESD につながると考えると、家庭や地域における ESD に対する理解と、学習活動への支援も必要と考え、長峰では、保護者や地域に方々が ESD の概念が理解できるように、「ユネスコスクール掲示板」を校内に常時掲示している。このように、ユネスコスクールや ESD とは何か、や稲城市の ESD 推進目標、長峰での ESD の目標を分かりやすく掲示し、保護者や地域の方々への周知をしてきた。このことにより、生活科や総合的な学習の時間の学習活動のねらいが家庭や地域に伝わりやすくなり、児童がもった課題の解決に家庭や地域の協力が得られやすくなった。また、地域における新たな題材や教材、ゲストティーチャーの開発にもつながった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 学習活動に主体的になるために、児童が解決せずにはいられない「課題設定」を立てられるような学習活動を研究する。
 - ・ 対話的な学習・学習活動とするために、学習プロセスを見直し、児童に様々な形態の話し合い活動を行わせ、それによる相互作用や、振り返りの力がどのように伸びるか検証する。
 - ・ 「深い学び」とは何か、児童が深く学んでいると評価される学習態度とはどのようなものか、授業研究を通して明らかにしていく。
- ① 研究全体会（4月4日）…これまでの研究の成果と課題を振り返り、全教員で主題と発表に向けての方向性や計画を確認する。
 - ② 研究授業…4月25日、5月16日、30日、6月6日、20日、7月4日、11日に全学年と特別支援学級の研究授業を行う。
 - ③ 研究発表…12月6日に研究発表会を行う。講師：田村 学先生
 - ④ 研究全体会（2月）…1年間の研究を通し、児童にどのような変容が見られたかを各分科会から報告する。研究推進部からの研究成果や課題についての見解を述べ、1年間の研究のまとめを行う。